

高等学校

平成22年度

教育研究員研究報告書

外国語部会

東京都教育委員会

はじめに

東京都教育委員会は、平成22年度から新たに幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員を対象に教育研究員を設置し、平成17年度まで50期にわたって行ってきた教育研究員事業を6年ぶりに復活させました。この事業は、教育研究活動の中核となる教員を養成することによって、東京都全体の教育の質を向上させることを目的としています。各教育研究員には1年間の研究活動を通して組織的な研究活動の在り方を身に付け、これからの東京都の教育研究活動の推進者となることが期待されています。

平成20年3月に告示された幼稚園・小学校・中学校学習指導要領に続き、平成21年3月に高等学校学習指導要領が告示され、全ての校種が新しい学習指導要領の本格実施あるいは本格実施に向けての移行期間に入りました。このことを受けて、平成22年度の教育研究員の共通テーマは「新学習指導要領に対応した授業の在り方について」とし、研究の柱が改訂された学習指導要領であることを明確にしました。また、今回の学習指導要領改訂の大きなポイントの一つである「言語活動の充実」については、全ての校種・部会の研究内容の中で取り組むこととしました。

これまで都教育委員会は、都立高校教育の充実・発展のために「生徒による授業評価」を活用した授業改善の促進や、進学指導重点校等での進学指導に関する協議会の開催など、生徒の学力を向上させるための取組を行ってきました。また、平成22年度からは、進学指導のマネージメントの定着を図る目的で、進学校における外部機関による進学指導診断を実施したり、学力向上に向けて実践的な研究を行う学校を指定し、高校入試結果の分析、学力向上推進プランの作成、学力調査問題の開発・実施・分析を通して学習指導の改善と充実を図ったりしてきました。

そこで、本年度高等学校の各部会においては、全校にわたる共通テーマに加え、「確かな学力の向上を図るための授業等の工夫についての実践研究」を高等学校全体のテーマとして設け、各部会において確かな学力を定義づけた上で、それぞれの研究主題を設定し、研究開発に取り組んできました。

この1年間、高等学校の全15部会、70名の教育研究員が、国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術（音楽）、外国語、家庭、情報、農業、工業、商業、特別活動及び総合的な学習の時間の各教科等について、研究主題に基づいて研究を行い、協議を重ね、検証した内容を本報告書にまとめました。

各学校におかれましては、本報告書を有効に活用し、学力向上に向けた教科等の指導方法・内容の改善と充実に取り組んでいただくようお願いします。

平成23年3月

指導部高等学校教育指導課長

宮本 久也

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
VI	研究の成果	14
VII	今後の課題	15

研究主題	「4技能を総合的、統合的に育成するタスクを取り入れたコミュニケーション活動」
-------------	---

I 研究主題設定の理由

高等学校学習指導要領の外国語科の目標は、「コミュニケーション能力を養う」ことである。そのために外国語を通じて言語や文化に対する理解を深めること、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること及び情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることが必要である。これらは、平成21年3月に告示された新学習指導要領で定義された学力の三つの要素に合致しており、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の四つの技能とそれらの技能に必要な知識や語彙に基づいたコミュニケーション能力が、外国語科における確かな学力であると言える。外国語科において確かな学力の向上を図るためには、どのような指導を行っていけばよいのか、ということが、本部会の実践研究における大きなテーマである。

さて、今回の学習指導要領改訂の主なポイントは以下の4点にまとめることができる。

- 1 4技能を総合的に育成する指導の充実
- 2 文法事項と言語活動の一体的な指導
- 3 内容的に充実したコミュニケーションのための指導語数の充実
- 4 四つの領域の言語活動の統合

英語教育の現状における課題としては、四つの技能が別々に指導されている、基本的な語彙、文構造の指導及びまとまりのある内容を発信する力を育成する指導が十分ではない、といったことが挙げられる。これらの課題を解決するために、新学習指導要領では、中学校段階から指導すべき語数を増やすとともに、科目を再編成することにより、四つの技能を統合してコミュニケーションを行う力の育成を図ることとしている。

これまでも、コミュニケーション能力の育成に重点を置いた授業については、様々な実践研究が行われてきている。言うまでもなく、授業におけるコミュニケーション活動では自分が伝えたい情報や自分の考えを発信し、相手はその情報を受け取ることによって、課題を解決したり、お互いの理解を深めたりする主体的な場面や活動を設定し、より自然なコミュニケーションが成立するよう配慮することが重要である。そのためには、四つの技能を取り入れた言語活動を行うことに加え、教材やその取り上げ方の工夫や、多様な活動形態を取り入れることなども必要である。

本部会では、四つの技能とそれらの技能に必要な知識や語彙に基づいたコミュニケーション能力を向上させるための授業の工夫として、タスクに着目した。タスクとは、学習者が学んでいる言語を実際に使用することによって達成する課題である。本部会では、与えられた課題を達成するために学習者が必要な語彙や言語材料、文法知識を駆使してコミュニケーションを行うことになるため、授業にタスクを取り入れることで生徒の学習意欲や、四つの技能を統合して活用できる力が向上し、コミュニケーション活動が活性化すると考え、研究主題として設定した。

Ⅱ 研究の視点

本研究は、次の3点から行った。

1 タスクに関する先行研究、実践事例の収集

(1) PPP (Presentation-Practice-Production)

タスクに基づく言語教授法に対して、伝統的な教授法としてPPPが挙げられる。これは、指導内容の導入説明→指導内容のドリル・反復練習→英語を使用する応用練習、の三段階から構成される。この型の学習過程においては、口頭練習が主となり英語で発信する場面が限定されているため、四つの技能を用いて主体的に自分の考えなどを伝え合う活動が不足している。

(2) TBLT (Task-based Language Teaching)

学習者に達成させる課題(タスク)を与え、その課題達成のための道具として英語を使わせ、英語を使用する過程を最大限に利用して実践的コミュニケーション能力を育成しようとするアプローチである。この指導法は、与えられたタスクを完成させることが目的であり、発話の正確さよりも発話させる内容に重点が置かれる点の特徴である。

2 4技能を総合的に育成するタスクを取り入れた指導法の開発

先行研究を踏まえ、実際に授業で利用できる指導法を開発した。指導内容に応じて授業の流れの中でどの場面で行なうタスクを行なわせるか、ということに留意して指導法を開発した。

(1) プレタスク

プレタスクは、タスクで扱う学習内容の導入や語彙の提示によりタスク活動をスムーズに行うための準備活動である。タスクの目的、生徒の習熟度、タスクの種類等に応じて準備時間を設定する。

(2) タスク

タスクは、授業の中心となる言語活動を必要とする課題である。生徒がタスクに取り組んでいる時には、教員からの誤りの訂正、アドバイスは控え、メモを取るにとどめる。正確さよりも、生徒自身の言葉により自然な発話を促すことが重要である。

(3) 発表活動

タスクで行なったペアワークやグループ活動の成果を、可能な限りクラスで共有するために、レポート等の発表を行わせる。発表活動を行わせることで、タスク活動のまとめを行い、発表者及び聞き手双方のコミュニケーションの場を増やすことにつながる。

(4) 評価

評価は、タスクが完了したかどうか重点を置いて行う。意欲や関心、態度については生徒に自己評価を行わせ、理解や表現の能力については観察評価や成果(learning outcomes)などによる評価を行う。

3 4技能の言語活動を統合するタスクを取り入れた授業研究

4技能の言語活動を統合するタスクを取り入れた指導法を開発を踏まえ、次の3点に留意して授業研究を行った。

(1) 指導内容の工夫

使用する教材や学習内容に関連付けて、生徒にとって身近な話題を取り上げる。例えば、その時期に話題になっているスポーツやイベント、自分のことについての話題など、生徒が興味・関心をもって言語活動に取り組むことができる内容を扱う。

(2) 指導方法の工夫

インプットされたものを活用してアウトプットする活動を行う。学習内容にある語彙や表現、言語材料を使って発話させたり自己表現させたりする。インプットの方法は、ドリルなどの反復練習にこだわらず、リスニングや音読などの音声面の指導を入れるよう配慮する。アウトプットの方法は指導形態に応じて定め、言語活動を活性化するためにインタラクションを取り入れる。

(3) 指導形態の工夫

コミュニケーションを行なうために、タスクの実施形態は、ペアワークやグループワークを中心に行なう。

Ⅲ 研究の仮説

1 生徒の興味・関心に沿った学習内容

生徒にとって身近な話題や興味・関心に沿った内容を取り扱うタスクを行わせることにより、生徒の学習意欲を高め、コミュニケーションを積極的に行なおうとする態度を養うことができる。また、タスクを行わせることにより、生徒が教師に指示されたことだけでなく、自ら進んで調べたり考えたりするなど、生徒の自発的な学習を促す。

2 インプットされたものを活用してアウトプットするタスク

聴覚や視覚に訴える教材を多く用いることによって、様々な語彙や表現、言語材料に係わる情報をインプットすることができる。タスクを行なう言語活動の中で、インプットされた知識を活用してアウトプットすることができる。インプットでは、「読むこと」、「聞くこと」の活動、アウトプットでは「書くこと」、「話すこと」の活動を行い、4技能を統合して活用する力が身に付く。

3 ペアワーク、グループワークの活用

タスクを行わせる際に個人やペア、グループなど多様な活動形態を取り入れ、コミュニケーションの内容や場面を増やすことにより、生徒のコミュニケーション活動が活性化する。

Ⅳ 研究の方法

使用する教材や学習内容に関連付けて、生徒が発信しやすい身近な内容をタスクに取り入れる。具体的には、「読む」活動及び「聞く」活動（インプット）の前後や途中に、以下の五つの活動を行うタスクを作成した。

- 1 「読む」活動前：マッピングなどを用いて背景知識や関連語彙を拾い出す。
- 2 「読む」活動後：既習の文法事項、語彙、表現を用いて読んだ内容について話したり書いたりする。
- 3 「聞く」活動前：キーワードや提示された関連資料から予備知識をもつ。

- 4 「聞く」活動中：語彙や内容についてメモをとる。
- 5 「聞く」活動後：聞き取った内容を人に伝える。聞き取った語彙や表現を用いて話したり書いたりする。内容についての感想や意見を述べる。

授業においては、上記の1～5のバランスを考え、四つの技能を相互に関連させて取り入れた活動を行えるよう留意してタスクを考えた。

V 研究の内容

1 研究構想

全体テーマ **新学習指導要領に対応した授業の在り方について**

高校部会テーマ **確かな学力の向上を図るための授業等の工夫についての実践研究**

教科等の新学習指導要領のポイント

- ・ 4技能を総合的に育成する指導の充実
- ・ 文法事項と言語活動の一体的な指導
- ・ コミュニケーションを行うための指導語数の充実
- ・ 四つの領域の言語活動の統合

教科等における確かな学力とは

「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の四つの技能と、それらの技能に必要な知識や語彙に基づいたコミュニケーション能力

現状と課題

<現状> ・ 4技能が統合的に指導されていない。・ 基本的な語彙や文構造の指導、まとまりのある内容を発信する力を育成する指導が十分ではない。

<課題> ・ 四つの領域の言語活動の統合を図る。・ 文法指導を言語活動と一体的に行う。・ 身に付けた語彙や表現、文法項目を用いて、まとまりのある内容の発信ができる能力を育成する。

外国語(英語)部会主題

4技能を総合的、統合的に育成するタスクを取り入れたコミュニケーション活動

仮 説

- ・ 生徒の興味・関心に沿った内容を取り入れたタスクを行わせることにより学習意欲を高め自発的な学習を促す。
- ・ inputされたものを活用してoutputするタスクを行うことにより、4技能を統合的に活用できる力が身に付く。
- ・ タスクにペアワーク、グループワークを取り入れることにより、コミュニケーション活動が活性化する。

具体的方策

- ・ 使用する教材や学習内容に関連付けて、生徒が発信しやすい身近な内容をタスクに取り入れる。
- ・ 「読む」活動及び「聞く」活動(input)の前・中・後に、以下の活動を行うタスクを開発する。
 - 「読む」活動前：mappingなどを用いて背景知識や関連語彙を拾い出す。
 - 「読む」活動後：既習の文法事項、語彙、表現を用いて読んだ内容について話したり書いたりする。
 - 「聞く」活動前：key wordsや提示された関連資料から予備知識をもつ。
 - 「聞く」活動中：語彙や内容についてメモをとる。
 - 「聞く」活動後：聞き取った内容を人に伝える。使用語彙や表現を用いて話したり書いたりする。内容についての感想や意見を述べる。
- ・ タスクを行わせる際、ペアやグループで情報や考えを伝え合ったり話し合ったりする活動を多く取り入れる。

2 実践事例

科目名	英語 I	学年	1 年次
-----	------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

単元名 Moving Mountains

使用教材 MAINSTREAM ENGLISH COURSE I（増進堂）

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・野口氏の生い立ち、高校時代の出来事、人生の目標、7大陸最高峰登頂、エベレスト山清掃活動、富士山清掃活動、シェルパの家族支援活動について、時系列にしたがって正しく理解させる。
- ・本課で扱う語句や表現、言語材料（時制・過去完了・名詞を補足説明する分詞）の理解を定着させ、自己表現活動に活用できるようにする。

(3) 評価規準

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
単元の評価規準	①知っている表現を用いて表現しようとする。 ②野口氏の活動内容やそれにいたる経緯に関心をもち、さまざまな言語活動に意欲的・積極的に取り組む。	①適切な位置で区切りながら、適切な音量で本文を音読できる。 ②本文の内容に関する英語の質問に英語で答えることができる。 ③本文の内容のポイントを含む要約文を書くことができる。	①本文を聞いて、その内容を理解することができる。 ②本文を読んで、その内容を正しく理解することができる。	①時制を的確に把握し、時系列にしたがって、本文の内容を正しく理解できる。 ②分詞の活用、英語の語順について理解している。 ③野口氏の生い立ちや活動について理解している。

(4) 単元（題材）の指導計画（8時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準（評価方法）
1	・ Lesson 3 導入、Part 1 野口氏の職業、業績、生い立ちについて理解する。 ・ 文法事項、新出単語、熟語の発音と意味を理解する。	・ 絵や写真を見ながら英語による質問に英語で答える。野口氏について基本的な知識を確認し、本文の内容を理解する。 ・ 意味を考えながら本文を音読する。	ア①イ②エ①③（生徒の活動の観察・指名） イ①（観察）
2	・ Part 2 高校時代の野口氏、彼が設定した目標について理解する。 ・ 文法事項、新出単語、熟語の発音と意味を理解する。	・ 絵や写真を見ながら英語による質問に英語で答える。本文の内容を理解する。 ・ 意味を考えながら本文を音読する。	ア①イ②エ①③（生徒の活動の観察・指名） イ①（観察）
3	・ Part 3 ヒマラヤ清掃活動の活動内容について理解する。 ・ 文法事項、新出単語、熟語の発音と意味を理解する。	・ 絵や写真を見ながら英語による質問に英語で答える。本文の内容を理解する。 ・ 意味を考えながら本文を音読する。	ア①イ②エ①③（生徒の活動の観察・指名） イ①（観察）
4 本時	・ Part 3 ヒマラヤ清掃活動の復習 ・ 本文中の単語、熟語を用い、自分たちの学校のクリーンキャンペーンについて考え、口頭で発表する。	・ 絵や写真を見ながら英語による質問に英語で答える。本文の内容を理解する。 ・ 意味を考えながら本文を音読する。	ア①イ②エ①③（生徒の活動の観察・指名） イ①（観察）

5	<ul style="list-style-type: none"> Part 4 シェルパの家族たちの支援方法について理解する。 文法事項、新出単語、熟語の発音と意味を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や写真を見ながら英語による質問に英語で答える。本文の内容を理解する。 意味を考えながら本文を音読する。 	ア①イ②エ①③(生徒の活動の観察・指名) イ①(観察)
6 7	<ul style="list-style-type: none"> 本文で扱われた文法事項を復習し、他の例文を参照しながら理解する。(時制・過去完了) 	<ul style="list-style-type: none"> 文法事項を用いて、言語活動(書くこと、話すこと)を行なう。 	エ②(問題演習)
8	<ul style="list-style-type: none"> 本文で扱われた表現、内容、文法事項を参考にしながら、自分の将来の夢について考え、口頭で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容について自己表現活動を行う。 	ア①イ②エ①③(生徒の活動の観察・指名) イ①(観察)

(5) 本時(全8時間中の4時間目)

① 本時の目標

- ア 学校内のいろいろな場所について、英語での表現方法を理解する。
- イ 野口氏の清掃活動を参考にして、自分たちの学校のクリーンキャンペーンを考え、英語で説明する。
- ウ 本文の内容について、自分の意見や考えを英語で表現する。

② 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5	PART 3 の内容(ヒマラヤ清掃活動)の復習 <ul style="list-style-type: none"> 絵や写真を見ながら英語の質問に英語で答え、本文の内容を復習する。 タスク活動で使用する表現を口頭練習を行い、復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心を促すため、絵や写真を用いる。 聞いて理解したことを音声にし、理解の定着をはかる。 適宜質問をいれ、理解度をはかる。 タスク活動で使用する言語材料を確認する。 	ア①イ②ウ②エ①③(生徒の活動の観察・指名) 声の大きさ。質問に的確に答えられるか。内容を英語で再生できるか。
展開	35	タスク活動 プレタスク(全体 5分) 学校内の場所について英語での表現方法について学ぶ。 Classroom, playground, hall, Gym, rest room, teacher's room, など。 タスク①(グループ 20分) <ul style="list-style-type: none"> 4人から5人を1グループとして、清掃場所を選び、その場所を選んだ理由、スローガンを話し合い、意見をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> マッピングを用いて校内の場所を拾い出し、英語での表現方法を整理する。 グループ内で協力してコミュニケーションをとっているか。 英語で意見を伝え、相手の言っていることを理解しているか。 	ア①(生徒の活動の観察・指名) 語彙力 ア①②(生徒の活動の観察・指名) 相互コミュニケーション力 記述の正確性

	<ul style="list-style-type: none"> 本文に出てきた単語や熟語を使って表現する。 メンバーの意見を聞きながらメモを取り、ワークシートにまとめる。 plan to clean up ～. were obsessed with ～. have seen a lot of garbage. "If we can change_ ～, we can change ～." スローガンを用紙に書いてポスターを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文に出てきた表現を使っているか。(モデル文に応じた文を作成しているか。) 日本語を英語に訳さず直接英語で表現しているか。 独自性はあるか。 ワークシートに記入しているか。(単語や表現等正確に記入しているか。) 		
	<p>タスク② (グループごとの発表、15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに前に出てきて発表をする。 他の班の発表を聞くときは評価し、英語でコメントを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ほかのグループの発表をきちんと聞き、理解しようとしているか。 発表活動に参加しているか。 グループ内で協力して発表できているか。 ワークシートに必要な情報を記入しているか。 	ア① (生徒の活動の観察・指名)	
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を振り返り、自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに必要な情報を記入しているか。 	(ワークシート・生徒の活動の観察・指名)

<ワークシート例>

class no name

●野口さんの活動を参考に校内クリーンキャンペーンをします。

①自分たちのグループはどこをきれいにするかきめる。

②なぜそこをきれいにしたいか理由を二つ以上述べる。

③スローガンを決め、ポスターを作る。

④クラスで発表する。

Useful Expression

We plan to clean up Mt. Everest.

We were obsessed with the garbage we had seen while climbing Mt. Everest.

We have seen a lot of garbage near the peaks.

"If we can change Mt. Fuji, we can change Japan."

PLACE	
REASON	
SLOGAN	

●グループ発表

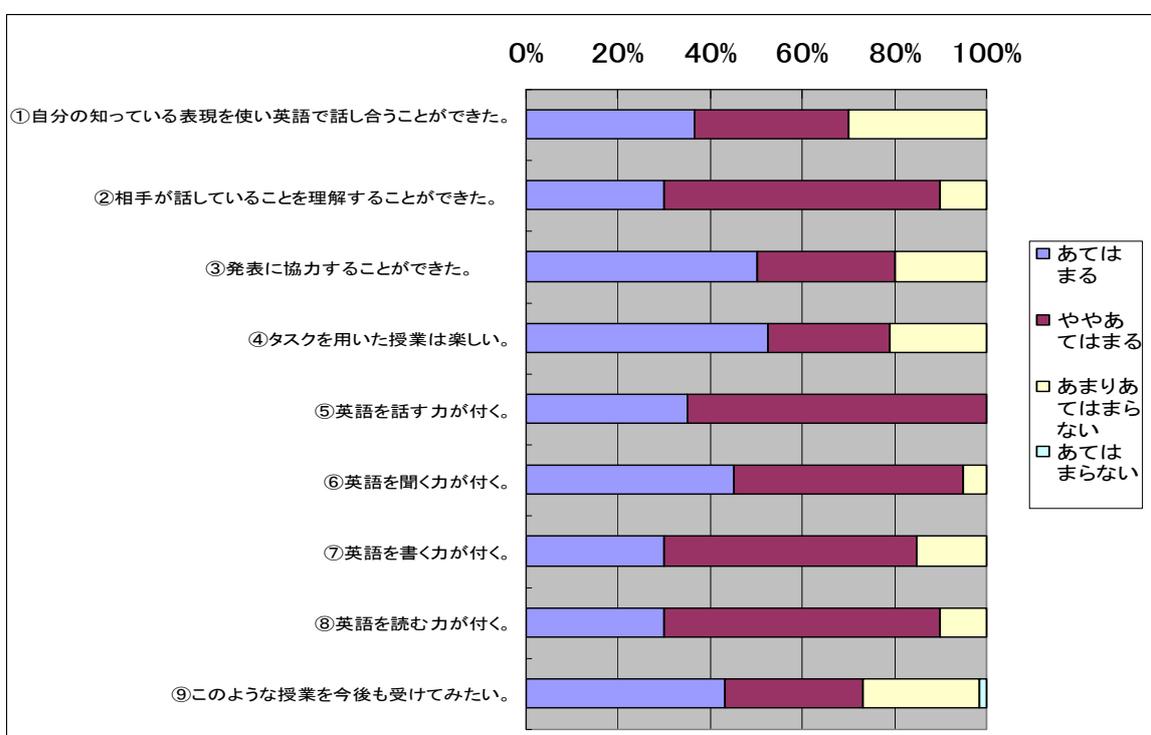
ほかのグループの発表を聞き、参考になった表現を書き取りましょう。

また、ABCDの4段階で評価をつけ、英語でコメントを書きましょう。

グループ名	参考になった表現	評価	コメント

(6) 本時の振り返り

- ①グループでの英語の話し合いや発表活動への取組はどうであったか。
 - ②タスク活動を取り入れた授業を通して4技能の運用力を育成できたと生徒が実感したか。
- 以上2点を中心に振り返るために、タスク活動終了後に生徒に対してアンケートを行った。



タスクを用いた授業は、生徒が主体的に活動する時間が長い。教科書で読んだ内容を自分たちの身近なテーマに置き換え、話し合い、発表活動を行う。つまり、聞いたり読んだりして理解した内容をもとに、英語で話し、話し合った内容を文字で書いて表現するという4技能を統合した活動である。

すべての項目において、あてはまる、又はややあてはまると解答した生徒は65パーセント以上と好評価であった。特に英語で話す力が付くとほとんどの生徒が感じている。一方で、実際に口から英語が出てこないというもどかしさを感じていることが観察された。

自由意見としては「単語などをとにかく思い出して発話するのが楽しかった。」「英語を使おうと意識できる状況だったので、わかる単語を使って少しでも話そうという気になれてよかった。」「英文を自分たちで考えることで頭を使い、少し頭が良くなった気がした授業だった。」など既習の知識をもとに英語でコミュニケーションをとることに楽しさを感じた

生徒が多かった。一方で「間違えるのが嫌で話し合いに参加しない人がいた。」「自分の言いたいことを英語で伝えられなかった。」など話し合い活動にもう少し工夫や改善が必要だということが課題である。

実践事例のタスク

タスク名	プレゼンテーション	対象 学年	1年	所要時間	45分
ねらい	教科書本文の清掃活動の内容を参考に、校内の場所に関する英語での表現を理解する。また、校内クリーンキャンペーンを企画し、発表する。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・野口健の富士山やエベレスト山における清掃活動を参考に、グループで話し合い、自分の学校でのクリーンキャンペーンをグループで企画する。 ・ポスターを作り企画内容を発表する。 				
指導形態	グループワーク（4～5人）				
言語材料	時制（現在、過去、現在完了） Where do you plan to clean up? I want to clean up …. Why did you choose the place? Because I have seen …. What is your slogan? It is “If we can change , we can change ….”				
手順	1 プレ・タスク（5分） 学校内の場所について英語での表現方法を学ぶ。 2 タスク（35分） (1) グループに分かれて、清掃場所を決め、その場所を選んだ理由を話し合う。 (2) スローガンを決め、ポスターを作る。 (3) グループごとに自分たちの企画を発表する。 発表を聞く際は参考となる表現を書き取り、評価をする。 3 まとめ（5分） 発表活動を振り返り、自己評価をする。				
評価の観点 評価方法	1（評価方法）観察評価、ワークシートに記入された英語の総語数、自己評価 2（コミュニケーションの継続）既習の語句や表現を用いて自分の意見をグループ内で伝えることができた。話したり聞いたりした表現を書き取ることで4技能を統合的に活用することができた。 3（表現の能力）説得力のある内容で相手に自分の意見を伝えることができた。他の人やグループの発表から参考になる表現を学ぶことができた。				
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を分担し、全員が発表に関わるように指導する。 ・ポスターを効果的に活用し発表するよう指導する。 				

3 タスク事例

以下は本研究で開発し、授業実践で取り入れたタスクの事例である。各授業の指導のねらいに応じて、これらのタスクを活用し、コミュニケーション活動を活性化することができる。なお、対象学年は学習段階に応じた目安である。

タスク事例 1

タスク名	Story Telling (Pre-Reading 活動)	対象学年	1年	所要時間	50分
ねらい	教科書本文を読む前に、キーワードをもとに書いたストーリーを相手に伝える。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・野口健の人生に関するキーワードを読み、彼の人生を予測し英文で書く。 ・書いた文章をもとにグループで話し合い、ストーリーを完成させて発表する。 				
指導形態	個人、グループワーク（4～5人）、全体での発表				
言語材料	時制（現在、過去、現在完了、過去完了）				
手順	<p>1 プレ・タスク（10分）</p> <p>（1）与えられたキーワードを参考にして、ストーリーを考える。</p> <p>（2）キーワードを順番に用いて、7～10文のストーリーを書く。</p> <p>2 タスク（30分）</p> <p>（1）グループに分かれて、それぞれが書いたストーリーを伝え合う。</p> <p>（2）他の生徒が伝える内容で参考になるところなどを書き取る。</p> <p>（3）グループ内で話し合い、ストーリーを完成させる。</p> <p>（4）完成したストーリーをクラスで発表する。</p> <p>（5）自分のグループと異なる表現、語彙、語法などで参考になるものを書き取る。</p> <p>3 まとめ（10分）</p> <p>（1）生徒が書き取った表現や語いなどをもとに、教師が話の流れ、英語表現、語法等で参考となるものや改善できる点について説明する。</p> <p>（2）自分の活動やグループの発表を自己評価する。</p>				
評価の観点 評価方法	<p>1（評価方法）観察評価、ワークシートに記入された英語の総語数、自己評価</p> <p>2（コミュニケーションの継続）既習の語句や表現を用いて考えたストーリーをグループ内で伝え合うことができた。話したり聞いたりした表現を書き取ることで4技能を統合的に活用することができた。</p> <p>3（表現の能力）ストーリーを指定された分量の英語で書くことができた。他の人やグループの発表から参考になる表現を学ぶことができた。</p>				
留意点	グループで全員が意見を出し合い、それをまとめることにより、全員が発表に関わるようにする。				

タスク事例 2

タスク名	プレゼンテーション	対象学年	2年	所要時間	50分
ねらい	100～150語程度の英文を読んで要約し、内容について自分の考えを述べる。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「さまざまな英語」についての英文を読んだ後、キーワードを用いて口頭で内容を要約する。 ・英文の内容について自分の考えや意見を発表した後、発表内容を英文で書く。 				
指導形態	ペアワーク、全体での発表				
言語材料	格を表す that、部分 定、a growing sense that、not necessarily				
手順	<p>1 プレ・タスク (前時+10分)</p> <p>(1) さまざまな英語 Englishes についての英文を読み、内容を理解する。</p> <p>(2) Story retelling で活用する key sentence の暗唱ドリルを行う。</p> <p>(3) トピックに関して意見を述べる表現等を練習する。</p> <p style="padding-left: 20px;">(例) I agree with this opinion, / I think that...because.... /</p> <p style="padding-left: 40px;">In my opinion, ...</p> <p>2 タスク (30分)</p> <p>(1) Key word が書かれているワークシートを使い、ペアで前半、後半に分けて、Story retelling する。</p> <p>(2) 英文の内容についての自分の意見を述べる。二文以上で、説得力のある理由や具体例等を言うよう促す。</p> <p style="padding-left: 20px;">(例) I agree with this opinion, because....</p> <p style="padding-left: 40px;">I think that this trend is acceptable, because....</p> <p style="padding-left: 40px;">I don't agree with this opinion, because....</p> <p style="padding-left: 40px;">In my opinion, I can't accept this sense because....</p> <p>(3) ペアで全体に発表する。要約は分担し、自分の意見は一人ずつ言う。</p> <p>3 まとめ (10分)</p> <p>他の人の発表を参考にして、英文の内容の要約と自分の意見を書く。</p>				
評価の観点 評価方法	<p>1 (評価方法) 観察評価、ワークシートに記入された英語の総語数。</p> <p>2 (コミュニケーションの継続) 自分や他の人の発表から、コミュニケーションの意欲が高まった。</p> <p>3 (表現の能力) 教科書や他の人の発表から、新たに使える語彙や表現を学ぶことができた。</p>				
留意点	2種類の活動を同時に実施するため、指示は丁寧に行う。				

タスク事例 3

タスク名	Detectives & Discussions	対象学年	3年	所要時間	50分
ねらい	インフォメーション・ギャップを活用して比較表現を身に付ける。 主題についての意見を交換し、スピーチ原稿を作成する。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題に関する質問文を用い、ペアで質疑応答する。 ・ 比較表現の入った様々な文を作り、ペアワークで相手の英文を推測する。 ・ グループ内で意見を出し合った後、スピーチ原稿の構想を立てる。 				
指導形態	ペアワーク、グループワーク（5～6人）				
言語材料	would have p.p. , none the 比較級 , The 比較級..., the 比較級... not as...as , much more...than , 比較級 than any other... , among the 最上級 ,Nothing is 比較級 than... , 倍数 as...as , 倍数表現 less than				
手順	<p>1 プレ・タスク（7分）</p> <p>（1）主題に関する重要表現及びそれらを含むモデル文を音読練習する。 主題：“The physical and psychological impact of the IT explosion: our way of living in the present and future”</p> <p>（2）主題についての質問に口頭で答え、モデル文の内容理解を深める。</p> <p>2 タスク（40分）</p> <p>（1）教師が読み上げるモデル文についての質問を書き取り、その質問を用いてペアでQAを行う。答えを書きとり、情報を整理する。</p> <p>（2）与えられた比較表現を使って英文を書く。ペアでヒントを出し合い、相手を書いた英文を推測する。</p> <p>例) The more advanced science and technology become , the less people communicate in person . ヒント1 : science and technology / ヒント2 : become advanced ヒント3 : communicate in person / ヒント4 : people</p> <p>例) Users of the Internet have doubled in less than three years . ヒント1 : in three years / ヒント2 : Users of ヒント3 : have doubled / ヒント4 : the Internet</p> <p>（3）グループで主題についての意見を出し合い、箇条書きにする。 ※意見を述べる際には、過去・現在・未来における社会的状況について比較表現を用いる。</p> <p>（4）書き出した意見をもとに、スピーチ原稿の構想を立てる。</p> <p>3 まとめ（3分）</p> <p>スピーチ原稿作成にあたっての留意点（語数、内容構成）を確認する。 ※スピーチ原稿の作成及び発表は次の時間に行なう。</p>				
評価の観点 評価方法	1（評価方法） 観察評価、ワークシート（書き取り、英文） 2（コミュニケーションの継続）ディクテーションやペアワークをとおり、4技能を統合的に活用し、相手とコミュニケーションを行うことができた。 3（表現の能力）比較表現を用いた適切な文を書き、情報を交換することができた。				
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアワークにおいて、正解するまでに出したヒントの数によって異なる得点を与え、合計点を競わせてもよい。 ・ 相手とのインタラクションを多く取り入れることで、主体的に考え、表現する姿勢や独創性を引き出すようにする。 ・ 書く活動においては、ワークシートなどを利用し、提出後に文法や語彙の誤りを指摘するとともに、評価の材料とする。 				

タスク事例 4

タスク名	I Have a Dream	対象学年	2年	所要時間	45分
ねらい	自分の夢について英語で話す。 聞いた内容についての感想を英語で述べる。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教材として扱ったキング牧師の演説を踏まえて、自分の将来の夢について英文を書く。 ・書いた英文をもとにペアで意見や考えを伝え合い、相手の意見や考えについて質問する。 ・クラスで発表する。 				
指導形態	個人、ペアワーク、全体での発表				
言語材料	I have a dream that It is a dream + 過去分詞. 分詞の形容詞的用法 (後置修飾)				
手順	<p>1 プレ・タスク (前時+5分) 表現や語彙に注意しながら、前時に学習したキング牧師の演説をCDで聞いて確認し、重要なポイントを音読練習する。自分の将来の夢について考える。</p> <p>2 タスク (30分) (1) キング牧師の演説での表現を参考にしながら、自分の将来の夢について4~5文程度の英文で書く。 (2) 書いた英文を相手に読み聞かせ、互いに聞いた内容について質問する。その際、質問の答えを書き取る。また、コメントを言い、書きとる。 (3) クラスで自分の将来の夢についてスピーチをする。 発表を聞く際は、内容のメモや参考になる表現や語彙などを書き取る。</p> <p>3 まとめ (10分) (1) 教師は生徒の発表から参考になる表現、語彙、文法・語法などを取り上げ、板書するなどして生徒に確認させる。 (2) 教師は評価シートを使って生徒に自己評価させる。</p>				
評価の観点 評価方法	1 (評価方法) 観察評価、ワークシート、発表の評価、自己評価。 2 (コミュニケーションの継続) ペア活動に積極的に参加できた。既習の表現を活用して、考えを伝え、他の人の意見を聞き理解できた。 3 (表現の能力) 将来の夢について英語で書き、伝えることができた。新たに使える語句や表現を学ぶことができた。				
留意点	パートナーの夢について、聞き手にレポートさせたり、コメントを言わせたりすることで活動をより活性化させる。コメントの仕方について、事前に表現などを例示するとよい。				

VI 研究の成果

タスクを取り入れた言語活動は、すでに様々な授業で実践されている。本部会では、タスクを授業に取り入れることにより、生徒の学習意欲を高め、自発的な学習を促し、4技能を統合した言語活動を取り入れることにより、4技能を総合的に育成することを授業研究のねらいとした。この研究を通して、タスクを取り入れた授業には、以下のような成果があることがわかった。

(1) 生徒の学習意欲を高め、自発的な学習を促す。

生徒の自己評価では、生徒の興味関心に沿った内容を取り入れたタスクを行なうことにより、全体の3分の2以上の生徒が、学習意欲が上がったと答えている。また、タスクを行う前の事前準備についての自己評価において、4分の3の生徒が自発的な学習を試みていることがわかった。

教師の観察評価では、教師が示していない語彙を辞書を活用して自発的に調べる生徒が多く見られた。また、自己表現を行なう際に、より適切な語彙や表現を用いてコミュニケーションを継続しようとする生徒の積極性が観察された。

生徒からの自由意見では、既習の知識をもとに英語でコミュニケーションを図ることに楽しさを感じた生徒が多いことがわかった。また、「言いたいことが英語で表現できなかった」、「他の生徒の活動を見て、もっと頑張らないといけない」と感じる生徒もいて、ペアやグループによるコミュニケーション活動が生徒の学習に対する動機付けとなっていることがわかった。

(2) インプットされたものを活用してアウトプットするタスクを行うことにより、4技能を統合して活用できる力が身に付く。

プレタスクにおいて、漠然と知っていた語彙や表現を例文などで口頭練習することによって、それらの語いや表現の意味・用法の理解が深まり次の活動につながることで、生徒の自己評価からもわかった。また、タスクにおいて、クラスメートと話し合ったりワークシートに記入したりする活動を行うことによって、学習内容が定着したことも観察された。

例を挙げると、ある授業で使用したワークシートに記入された英語の総語数を調べたところ、一つ目のタスクでの平均語数は40.1語で、二つ目のタスクでは46.5語に増えているという結果が出た。二つ目のタスクでは、学習内容に繰り返し触れることや活動に慣れてきたことが誘因として考えられる。

また、別の例を挙げると、口頭によるStory retellingの後、その内容の要約と意見を書かせるタスクでは、生徒はプレタスクで身に付けた英文や既習の語彙、語法を用いて、83語～140語のまとまった英文を書き、平均語数は106語であった。この事例における生徒の自己評価において「英語を書く力が付く」の項目で「あてはまる」「ややあてはまる」の回答率が100パーセントだったことから、生徒は量や質の上で達成感を得たと考えられる。

これらの結果から、読んだり聞いたりした内容や表現を活用して、話したり書いたりすることにより、4技能を統合して活用できる力が身に付くことが確認できた。

(3) タスクにペアワーク、グループワークを取り入れることで、コミュニケーション活動が

活性化する。

教師による観察評価及び生徒による自己評価の結果から、活動形態の工夫により、コミュニケーション活動の活性化を図れることがわかった。

<生徒による自己評価のアンケート結果>

A校 ○ペア及びグループワークに積極的に取り組み、充実したコミュニケーション活動を行った。

あてはまる 88% ややあてはまる 12% ややあてはまらない、あてはまらない 0%

○グループ活動を通して、自分の意見を表明し、主題に対する考えを深めた。

あてはまる 83% ややあてはまる 17% ややあてはまらない、あてはまらない 0%

B校 ○ペア活動に積極的に参加し、他の人の意見を聞き理解できた。

あてはまる 42% ややあてはまる 50% あてはまらない 8%

観察評価では、普段は消極的なクラスが、タスクのペアワークでは全員が英語で質問し合い熱心にメモを取ることを楽しんでいる様子が報告された。

VII 今後の課題

1 コミュニケーション活動における教員の支援

生徒の自己評価では、「間違えるのが嫌で話し合いに参加しない人がいた」「自分の言いたいことを英語で伝えられなかった」など、話し合う活動をより活発に行うために工夫や改善が必要であることを示す記述が見られた。また、Key words のみを用いた Story retelling では、図や写真などの視覚情報がなく、生徒が戸惑ったり要約することに苦手意識をもったりする生徒が多かった。生徒が円滑に発話できるように教師から適宜ヒントを与えるなど、活動の支援方法を工夫する必要がある。インプットの段階からアウトプットの段階に至るまで、生徒の理解や知識の定着と活用の度合いに応じてタスクを効果的な言語活動とするためのきめ細かな支援が求められる。

2 Error Correctionについて

生徒が書いたり話したりする際、文法的誤り、不適切な単語の選択、綴り間違いなどが見受けられる。誤りによって生徒同士で学び合うことも可能であるが、どの段階でどの程度まで正確さを求めるかについて検討が必要である。

3 タスクの開発と評価

教科書等を活用して学習指導する際、学習内容の定着とコミュニケーション能力の向上につながる効果的な活動を設定することが重要である。タスクを取り入れた言語活動をより効果的なものにするためには、学習内容や教材の言語材料をどのようにコミュニケーション活動に組み入れるか、また、それらの活動によって到達目標を達成することができるかなどを考える必要がある。教師が題材の選定やタスクの方法などについて様々な情報収集を行い、より効果的なタスクを開発するとともに、適切な評価方法を考えていくことが求められる。

4 データ集積と結果分析

タスクを取り入れた授業の効果について、生徒の自己評価、教師の観察評価に加えて、生徒の発話時間や語数、書く活動における成果としての文章の語数等のデータを分析し、検証

することが重要である。データの分析・考察を行うことにより、指導内容や方法等を改善することができる考える。

改訂された高等学校学習指導要領には「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。」と明記された。また、「文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。」が明確にされた。これらのことが示すように、タスクをコミュニケーション活動の特別な指導として考えるのではなく、教科書を用いて語彙、文法事項、内容理解、表現などの様々な指導をする過程でタスクを活用し、より多くの言語活動を取り入れることが重要である。

<参考文献>

Tasks for Language Teachers (CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS, Martin Parrot, 1993)

Task-Based Language Teaching(CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS, David Nunan, 2004)

Doing Task-based Teaching(OXFORD UNIVERSITY PRESS, Dave Willis and Jane Willis, 2007)

How to Teach Grammar(Longman, Scott Thornbury, 1999)

タスクが開く新しい英語教育 (開隆堂、ジェーン・ウィリス著青木昭六監訳、2003)

英語のタスク活動とタスク (大修館書店、高島英幸、2005)

英語のタスク活動と文法指導 (大修館書店、高島英幸、2000)

英語授業デザイン (大修館書店、大学英語教育学会監修、2010)

TBLT 導入による英語授業の改善 (愛知県教育センター研究紀要、2007)

平成22年度 教育研究員名簿

高等学校・外国語

学校名	課程	職名	氏名
都立葛飾総合高等学校	全日制	主任教諭	河上 昭恵
都立城東高等学校	全日制	主任教諭	鶴岡 洋宣
都立江戸川高等学校	全日制	教諭	鈴木 果純
都立稔ヶ丘高等学校	定時制	主任教諭	◎下山 宣子
都立国立高等学校	全日制	主任教諭	三輪 友子
都立上水高等学校	全日制	主任教諭	関野 俊樹

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 米村 珠子
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 課務担当係長 堀江 敏彦

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
高等学校 外国語部会

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕

平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451